

自然と話そう、人と話そう！

安威川ニュース



安威川ダムカードが新しくなりました。

平成26年度から配布を開始し、皆様にご好評頂いている安威川ダムカードのバージョン2がダム本体工事掘削完了に併せて完成しました。平成30年10月から配布を開始しています。裏面のランダム情報やこだわり情報も更新していますので、是非、建設中に限定で配布しているダムカードを手に入れてください。



安威川ダムカード

ダムのPR目的として、全国のダム約500ヶ所で発行されるダムの紹介カード。安威川ダムでは現在、建設中Ver.2.0を配布しています。工事の進捗にあわせて、今後様々なバージョンのカードが登場する予定です。

安威川ダム関連カードを集めよう。



安威川ダムグリーンカード

NPO法人コミュニティ安威川では、安威川ダム周辺の道路・歩道沿いで植栽・整備活動を行い、美しい自然環境を創生する「安威川ダム四季彩ロード整備プロジェクト」の苗木購入の為の基金へ募金いただいた方に、記念品としてお渡しています。



安威川ダムカレーカード

ダムの堤体や緑豊かな里山など、安威川ダムやダム周辺の自然をイメージしてつくれられた「安威川ダムカレー」。安威川ダムカレーは茨木北部及び市中心街地の8店舗で販売しています。ご注文の方にもれなくお渡しています。

[カード配布場所]

安威川ダムカード
安威川ダム資料館 / 安威川ダム建設事務所 (茨木保健所4階) /
安威川ダム情報交流センター (茨木保健所5階) / 忍頂寺スポーツ公園 竜王山荘
安威川ダムグリーンカード
安威川ダム資料館
安威川ダムカレーカード
中国料理 鮮飯店 / カフェレカ / Mariana CAFE / 招福堂 / いばらき茶屋 / タシモリカレー /
茨木市シルバー人材センターシールショップクローバー /
忍頂寺スポーツ公園竜王山荘レストランやまなみ

安威川ダムカレー食べに行こう。

茨木市内の飲食店8店舗で販売されている安威川ダムカレーのスタンプラリーが実施されています。スタンプを集めると限定バージョンのダムカレーカードがもらえます。



茨木市シルバー人材センター
シールショップクローバー ver.
安威川ダムカレー スタンプラリーカード 配布場所
茨木市北部整備推進課 (カード受付窓口) / 安威川ダム建設事務所 / 茨木市観光協会

ダム湖周辺を活用する 新たな担い手による活動。

平成30年12月9日、ダム湖周辺の継続的な利活用に向けた取組となる道普請とファンづくり会主催によるアウトドアアクティビティを地元や学生などの多数の参加者で実施しました。当日は、将来の活用に向けた府民協働による道づくりや地元車作産の食材を使用してつくる食育プロジェクト・オリジナルレシピのカレーづくりを行いました。安威川ダム建設事務所と安威川ダムファンづくり会では、ダム湖周辺を活用する新たな担い手による活動を支援しながら、今後も将来のダム湖周辺の活用と保全に向けた継続的な取り組みを連携して進めています。

INFORMATION

ダム建設現場が一望できる安威川ダム資料館。

建設が最盛期を迎える安威川ダム建設現場を間近で見学できる展望施設に併設されている安威川ダム資料館では、これまでのダム事業の歴史や取組みを知ることができるパネルや事業パンフレット等を多数ご用意しております。また、安威川ダムファンづくり会の活動拠点として、野菜教室や歴史教室等のイベントを定期的に実施しておりますので、是非お立ち寄りください。



新たな観光スポットとなるダムフォトフレームが完成しました。

安威川ダム資料館に併設されている展望施設にて、日々景色が変わるダム建設現場を背景に、自分だけのマイダムカードをつくることができるフォトフレームを設置しました。資料館やダム建設現場の見学と併せて、安威川ダムオリジナル・フォトフレームをお楽しみください。



ダム周辺の巨大ジオラマや、ダムの立体模型を観に行こう！

安威川ダムについて皆さんに知っていただくために、「安威川ダム情報交流センター」を開設しています。ダムの役割やダム周辺の環境保全対策について、広く一般の方々に情報を提供するとともに、ご意見を頂くことを目的としています。

センター内では、ダム事業地周辺の立体模型やバース、パネルの展示、パンフレットの配布、ビデオ放映を行い、ミニ図書館も設けています。

自由に見学・閲覧できますので、皆さんぜひお越しください。

安威川ダムファンづくり会からのお知らせ

ファンづくり会では、部会の活動に参加してくれる方を募集しています。詳しくは下記をご覧ください。



大阪府 安威川ダム建設事務所

安威川ダム資料館 所在地



安威川ダム資料館は、安威川ダム堤体の建設地すぐ近くの、大門寺北側高台ゾーンにあります。

【阪急茨木市駅から】
西口ロータリーから阪急バス「車作」行に乗車、「大門北」停留所にて下車。停留所から徒歩10分程度です。

安威川ダム資料館

場 所：茨木市大字大門寺97
大門寺北側高台ゾーン
開館時間（※2）
毎週木曜日 13:00～16:00、
毎月第1・第3土曜日
10:00～16:00

問合せ：安威川ダムJV工事事務所 TEL: 072-648-5464
(※1) 大門寺北側高台ゾーンへは、9:00～16:00までの間は自由に見学可能です。約20台の駐車が可能です。
(※2) 詳しくはホームページ (<http://www.aigawa.jp/>) もご覧ください。



〒567-0813 茨木市大住町8-11 TEL: 072-626-6083 FAX: 072-623-5963
メールアドレス aigawa-dam-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

VOL.6

平成31年(2019年)1月号

TALKS! AIGAWA



大阪大学大学院 工学研究科
環境・エネルギー工学専攻 都市環境デザイン学領域の学生のみなさん

さまざまなフィールドでの活動を通じて、 「ダム」と「地域」と「人」をつなげていく。

安威川ダムファンづくり会では、多様な協働プロジェクトの推進をはじめ、地域間のネットワーク構築、プラットフォームの仕組みづくりなど、さまざまな取組みを行っています。話題性、参加性、継続性を軸とし、多くの人たちが共感できる活動を展開していくことで、「ダム」と「地域」と「人」をつなげていきたいと考えています。



いばらきサイクリングプロジェクト

地域の方々と連携しながら、茨木にしかないサイクリング文化を生み出す。

茨木市は、市街地と山間地が近く、標高510mの竜王山の頂まで、なだらかな傾斜が続いている。その地形ゆえに育まれてきた「里山」ですが、サイクリストにとっても絶好のロケーションです。いばらきサイクリングプロジェクトは、「市街地から安威川ダムを中継拠点として、北部地域のさまざまな魅力を自転車で楽しむことはできないだろうか」という発想からスタートしました。ダム周辺地域の活用をはじめ、地域の活性化、地元の方々との交流など、茨木にしかないサイクリング文化を生み出すために、さまざまなチャレンジを行っています。



間伐材活用による森林保全プロジェクト

美しい山と森を守るために、みんなが一緒に「循環」をつくる。

茨木市北部の里山周辺地域に広がる美しく豊かな森は、近年、林業を営む人々の減少によって、間伐をはじめとする「森の手入れ」が行き届いていない状況です。安威川ダムファンづくり会では、2015年に「間伐材活用による森林保全プロジェクト」を発足。日々、茨木の山と森を守るために活動を続けておられる森林ボランティアの方々の協力のもと、学生、クリエイター、家具づくりの専門家が、一緒になって、課題解決を目指しています。



循環のしくみづくり



プロジェクトでは、地元の森林ボランティアの方々と大阪府立大学工業高等専門学校の学生たちが、間伐作業、製材加工を協働で行い、卒業制作や家具づくりに取り組んでいます。

いばらきデザインプロジェクト

デザインの手法を用いて、北部地域の課題解決を目指す。

茨木市北部地域が抱える人口減少、農林業従事者の不足など、さまざまな課題をデザインの手法を用いた「仕組みづくり」によって解決への糸口を導き出していくプロジェクト。フィールドワークをはじめ、地域プランディング、媒体発行による情報共有と発信などを行っていきます。そのプロセスを通じて、プロジェクトへの参加者を増やし、一体となって北部地域の魅力づくり、地域資源の新たな活用提案につなげていきたいと考えています。



「環境」への取組み

広大で豊かな自然環境を守り継ぎ、次世代の人たちに地域資産を残していく。

茨木市北部から市街地まで、なだらかに連なる屏風状の山と山間部から市外部を背骨のように流れる安威川。このような地形の特徴によって、多様な生き物たちがバランスを保ちながら生息しています。安威川ダムファンづくり会では、ダム建設で失われる自然を全力で回復させていくとともに、広大で豊かな自然環境や生態系を維持、保全するための活動を行っています。多分野の識者、専門家をはじめ、さまざまな人々に参加していただき、一丸となって課題に取組んでいきたいと考えています。



「食育」への取組み

「食」を身近に学ぶことができる、恵まれた環境を生かしていきたい。

茨木市は、市街地のすぐ近くに山や農地があり、「食育」を推進していくための環境に恵まれています。週末に里山で畑仕事をしたり、農家の方々とコミュニケーションを取るなど、「食」の現場と出会い、触れ合う機会を増やしていくことによって、自分たちの地域や社会についての関心や理解が深まっていきます。安威川ダムファンづくり会では、茨木の食文化を、もっと豊かにしていくための、さまざまな活動を行っています。

宙いもプロジェクト

宙いもプロジェクトは、茨木で採れたサツマイモで地元の名産品をつくる、農家とお店と市民が一体となって進める「町おこし」プロジェクト。品種を選ぶ初期段階から茨木高等学校の学生が関わっています。また、茨木市と連携して、災害時の防災食品としても推奨しています。



踊ってつくろう！ペットボトルピザ

「食育」と「防災」をテーマにした、安威川フェスティバルの人気プログラム「踊ってつくろう！ペットボトルピザ」。歌とダンスに合わせて、生地を入れたペットボトルを振ってピザ生地をつくり、チーズや具材をトッピングしてダンボール製のオーブンで焼き上げます。



ファンづくり会、地元の方々、大阪府、茨木市、事業者が一体となって ダム周辺地域の「自然環境保全」と「賑わい創出」に取組んでいく。



ファンづくり会が取組む活動を 次代につながる「新しい価値」へと紡いでいく。

安威川ダムファンづくり会は、2022年3月のダム完成に向けて、市内外の多様な分野の方々が、ダム周辺の自然環境保全、賑わい創出を主軸に見据え、まずは自分たちができることから実践し、そこからプロジェクト化や協働の体制づくりを進め、より多くの人たちが共感し、参加できるフィールドを生み出していく。2014年からスタートし、今年で6年目を迎えます。安威川流域の自然をステージとした環境教育への取り組み、地元農家の方々とともに地産地消を推進する食育のアプローチ、間伐材活用によって課題解決を目指す森林保全プロジェクト、自転車によるコミュニケーション手法を進化させて新たな文化創造を実現させるサイクリングプロジェクトなど、さまざまな活動を展開してきました。また、恒例となった安威川フェスティバルでは、これら活動の周知をはじめ、地元地域の方々との交流の場をつくり、たくさんの人々に参加していただきながら、ダムと周辺地域の未来図を、みんなで描いていくための機会創出を行っています。今後は、このような活動を、より継続的に、さらに参加性の高いものとし、次代につながる「新しい価値」へと紡いでいくことが大切だと認識しています。

安威川ダムと周辺地域の 活用・保全について、 みんなと一緒に考え 取組んでいきます。

「安威川ダムファンづくり会」は、ダムやその周辺地域の活用・保全などについて、大阪府、茨木市、地域の方々、企業、教育機関、NPO団体、専門識者、クリエイターなど、さまざまな分野の人々が意見やアイデアを出し合い、議論を重ねていきながら、一緒になって取組みを推進していくためのプラットフォームです。そのプロセスをオープンにしていくことで、共感へつながり、集まってこられる方々が「ファン」となって、地域づくりに参加していただくことを目指しています。

多くの人々が参加できる仕組みをつくる。

安威川ダムファンづくり会は、ダムと周辺地域を愛するファンを増やしていくことを目指しています。そのためには、眺めて美しい、訪れて楽しい、近くに住みたい、住み続けたいと思える環境を生み出していくことが大切です。より多くの人たちが関心を持ち、交流を深め、参加できる仕組みを構築し、みんなの想いを実現できる環境づくりを推進していきます。

周辺地域の自然環境を守り継ぐ。

ダム建設によって自然環境に影響することがあります。それを回復させ、守り継いでいくことは重要なミッションです。ダムと周辺環境の活用と保全、この二軸を同時に進行させ、バランスの良い地域資源の在り方を追求していくなければなりません。安威川ダムファンづくり会では、多様な分野の識者、専門家、クリエイターなどを交えて、総合的なグランドデザインに取組んでいます。

みんなで「使いこなす」ことができる 茨木の新たな拠点づくりを目指す。

安威川ダムは、全国でも数少ない「都市型ダム」です。市街地から車で20~30分でアクセスでき、その上流域には豊かな大自然が広がっています。市街地の最も奥にあり、山間地の入り口でもある。この絶妙なロケーションを生かし、市街地と山間地をつなぐための「拠点」として機能させていくことが、私たちにとっての重要なミッションだと捉えています。茨木市北部は、美しい景観、里山の暮らし、美味しい農作物、歴史や文化といった地域資源に恵まれています。しかし、市内外の方々には、まだまだ知られていないのが実情です。安威川ダムが拠点の役割を担うことで、人々が集い、情報を交換し合い、そこから山間地へ出向いたり、人と人の交流を深めていく。そして、観光やレクリエーション、環境、教育、文化、産業など、さまざまな領域において、ダムと周辺地域をみなさんで使いこなしていただきたい。2017年度より、茨木市が周辺整備事業の事業者ヒアリングも開始しました。これまでのファンづくり会、地元の方々が培ってこられた活動の成果を、しっかりと受け止め、よりスケールアップさせる方法を導き出し、大阪府と茨木市、事業者が一体となって、ビジョンを共有し、お互いの力を引き出し合い、茨木の新たな拠点づくりの実現を目指して、取組みを推進していきたいと考えています。



大阪府安威川ダム建設事務所 所長
山内 一浩 さん

Yamauchi Kazuhiro

昭和63年大阪府入庁以来、治水ダムの整備にかかる業務に多数従事。平成9・10年には、一般財団法人ダム技術センターに向。大阪府域のみならず、北は青森県の浅虫ダムから南は沖縄県の我善屋ダムなど、全国のダム事業に携わる。平成29年4月より現職。

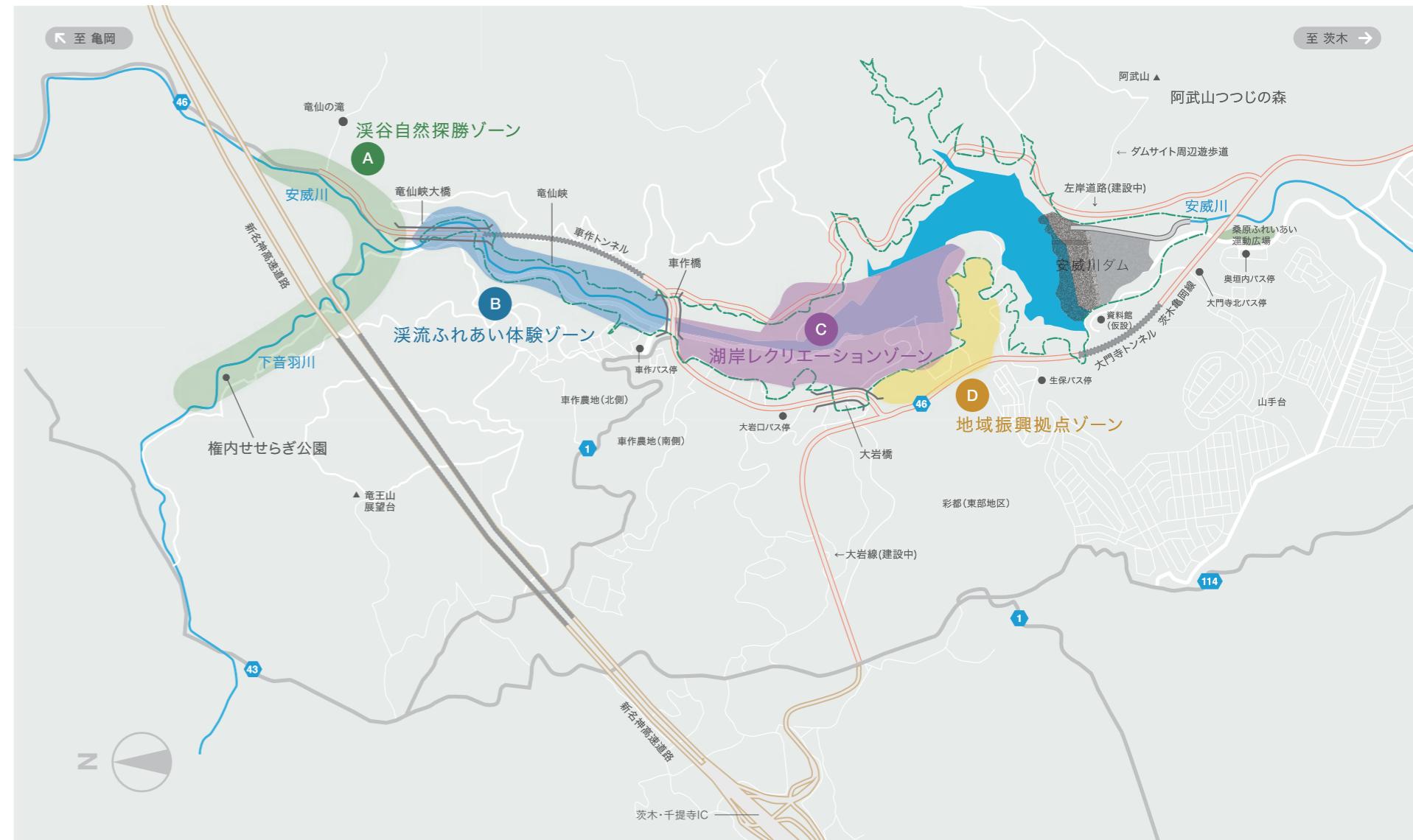
ダム周辺整備事業

みんなと一緒に描いていく、ダム周辺地域のグランドデザイン。

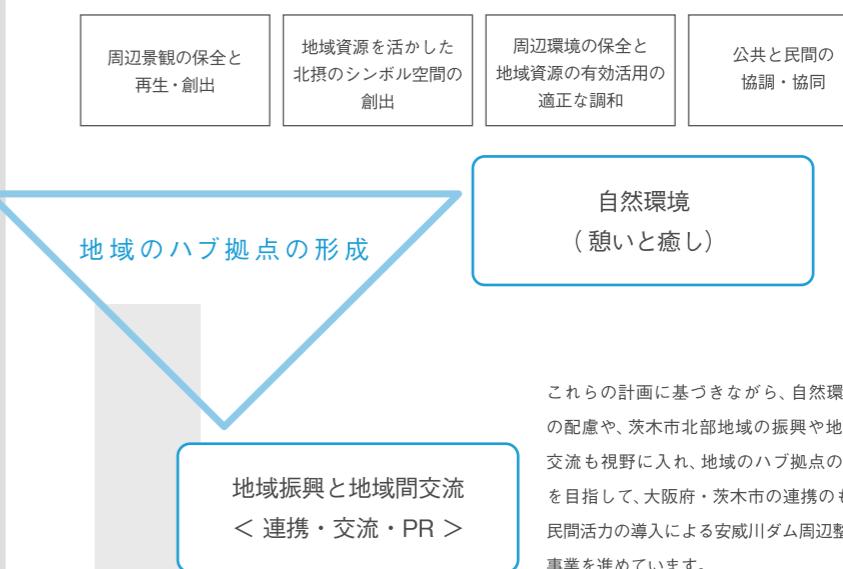
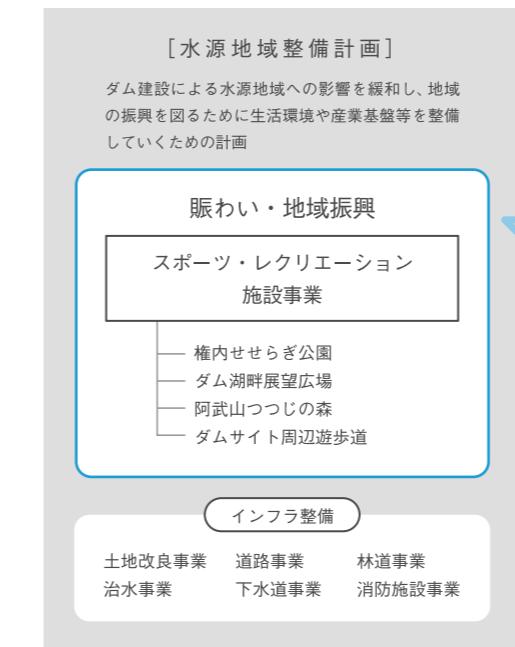
2022年3月の安威川ダム完成に向けて、茨木市と大阪府の連携によるダム周辺整備事業を推進しています。安威川ダムファンづくり会では、地元の方々、専門識者、クリエイターなどによるダム周辺活用のプランニング、計画に関するアイデア提案と日常活動を実践しています。2017年からは、茨木市が民間事業者との対話型ヒアリングをスタートし、具体的なグランドデザインに着手しています。みんなで力を集結させて、多くの人たちが共感し、永く愛され続ける「安威川ダム」を目指します。

民間企業者ヒアリングを踏まえた事業実施例

- A 溪谷自然探勝ゾーン 豊かな自然を体験できる空間
- B 渓流ふれあい体験ゾーン 多様なアウトドア体験のできる場
- C 湖岸レクリエーションゾーン 地域のぎわいを生み出す拠点形成
- D 地域振興拠点ゾーン 地域のぎわいを生み出す拠点形成



[安威川ダム周辺整備基本方針] 未来につなぐ美しい自然、創造と交流の湖畔の里



これらの計画に基づきながら、自然環境への配慮や、茨木市北部地域の振興や地域間交流も視野に入れ、地域のハブ拠点の形成を目指して、大阪府・茨木市の連携のもと、民間活力の導入による安威川ダム周辺整備事業を進めています。

地域の魅力をみんなでつなぎ・育てる湖畔の交流拠点





[安威川フェスティバル 2018 レポート]

茨木の新たな魅力に出会える場 「安威川フェスティバル 2018」が開催されました。

平成30年10月14日、5度目となる安威川ダムファンづくり会主催の「安威川フェスティバル2018」が、茨木市の「桑原ふれあい運動広場」で開催されました。清々しい秋晴れのもと、約1,400名の方にご来場いただき、大盛況のフェスティバルとなりました。「次世代へつなぐ出会いの場」をコンセプトとし、安威川周辺の自然を守り、創造的な地域づくりを考え、実践する人たちが出会う交流の場を目指して、市街地と山間地の活動が一同に会しました。前回同様、「自然に学ぶ」「文化に学ぶ」「ダムに学ぶ」「つなぐプログラム」という4つのテーマにもどづいて、50近くのプログラムを実施し、子どもから大人まで楽しめる、多彩なプログラムを展開することができました。「自然に学ぶ」は、安威川に生息するカメの生態展示や自分たちが描いた生きものの絵を缶バッジにする「手作り缶バッジ」といった環境教育プログラムのほか、「丸太切り体験」「どんぐりボットづくり」「木工体験をしてみよう」などを実施。また、安威川上流漁業協同組合による「アマゴのつかみ捕り」は子どもたちに大人気でした。「文化に学ぶ」は、食育をテーマとした「踊ってつくろう!ベットボトルビザ」や「見山の郷」「いばきた食いしんぼう横丁」「車作せんざい」「生保コメ糀・サイ菜クラブ」など、お米や野菜の販売等を通じて、地元食材を楽しむプログラムが実現しました。また、「お馬と仲良し」では、茨木市上音羽の「ばかばこ広場」からボニーがやってきて、親子で餌をあげたり、お散歩をして、お馬とのふれあいを楽しみました。「ダムに学ぶ」は、ダム建設の現場で活躍する大型重機に試乗したり、実際の工事現場をバスでまわれる「ダム工事現場体験ツアー」等、間近で見る重機の大きさに大人も子どもも大興奮でした。さらに、ダム建設工事の進捗状況を伝える展示ブースを設け、家族連れのみなさんにも楽しながら学んでいただきました。「つなぐプログラム」は、地元6地区のスタンプを集めて景品がもらえる「スタンプラリー」、大阪府立大学工業高等専門学校の学生と協働でつくった間伐材のテーブル・椅子を会場に設営する「間伐材プロジェクト」や、市内外のサイクリストたちが一同に集い、自転車によって山とまちをつなぐ可能性を探る「サイクリストミーティング」を行いました。さらに、多数の地元企業や飲食店が参加され、一緒になってフェスを盛り上げることができました。5年目を迎えて、リビータの方々や口コミで集まっていた方々が増え、安威川フェスティバルが、みなさんに広く認知され、地元のお祭りとして定着はじめたのではないかと実感しています。今後に向けて、さらに楽しんでいただけるフェスティバルとなるよう創意工夫を続けていきたいと思います。

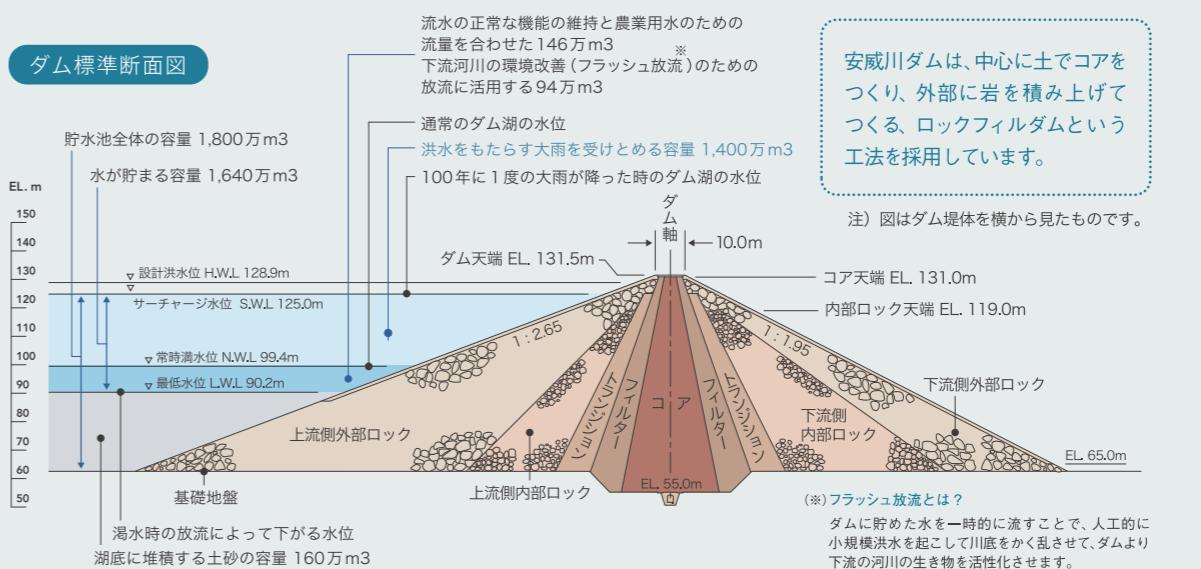


Dam Topics

2022年3月のダム完成に向けて建設工事が進められています。

安威川ダムは、淀川水系安威川の大阪府茨木市北部に建設する治水ダムです。

洪水調節、流水の正常な機能の維持、下流河川の環境改善を行います。



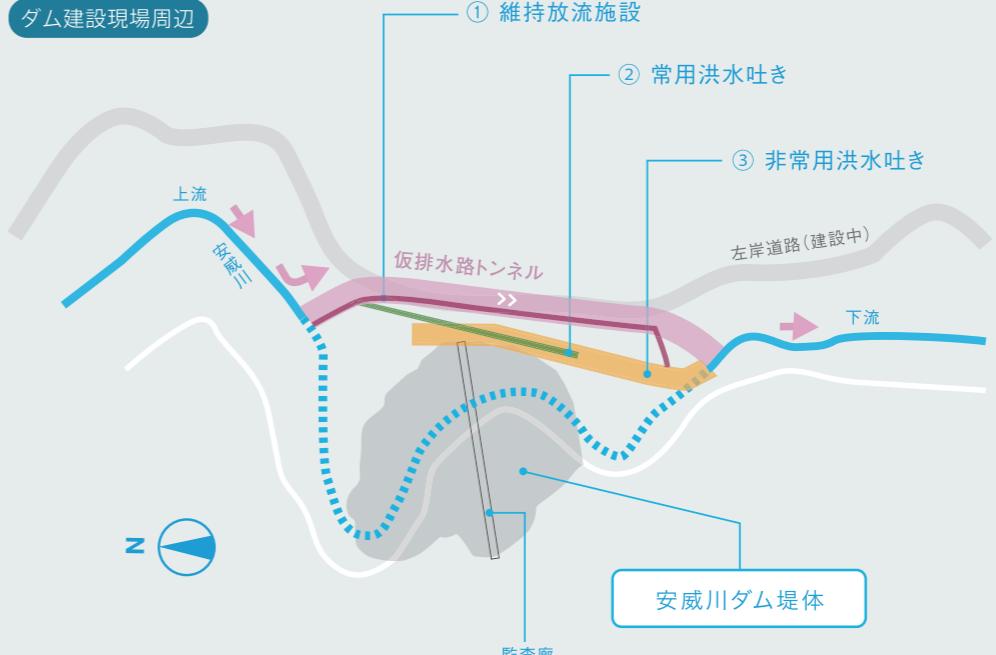
安威川ダム建設工事の進捗状況

安威川ダムが完成することによって、

普段の川の維持用水を下流へ流しながら、

100年に一度程度の洪水まで、洪水調節ができるようになります。

ダム建設現場周辺



① 維持放流施設

雨が降っていない普段の川の維持用水を下流へ放流する施設です。

② 常用洪水吐き

雨が降っている時のダム湖の水を下流に放流する施設となっており、100年に1度程度の洪水まで洪水調節を行える施設です。安威川ダムではトンネル形式となっています。

③ 非常用洪水吐き

安威川ダムはロックフィルダムであるため、水の越流に対して強くありません。そのため、常用洪水吐きで対応できない100年に1度より大きな洪水が起きた場合に堤体を越流させないために設けられた水路を言います。

[現在の工事の様子]



監査廊: ダム堤体の下部に設置する点検用の地下通路。堤体及び基礎岩盤内の浸透水計測や地震観測等を行います。

新しく整備される「左岸道路」開通によって、ダム湖を周回することが可能となります。

安威川ダム周辺の道路整備においては、既に開通している付替府道・茨木龜岡線によって、ダムの右岸側へのアクセスができるようになっています。現在は、その対面にあたる左岸道路の整備に着手し、ダム完成に合わせて工事を進めています。深い山岳の谷間を橋梁でつなぎ、美しい山々と湖畔の眺望を楽しむことができる新たな道路です。また、右岸と左岸の両道路がつながることで、ダム湖を周回することが可能となります。

多様な識者の方々に意見を頂きながら、自然環境・景観に配慮した道路整備を目指しています。

左岸道路は、平成28年3月に策定した「安威川ダム自然環境保全対策実行計画案(※)」に基づいた整備を進めています。環境への負荷を軽減させるため、仮橋を使用するなど、橋梁の工事に必要な伐採面積を最小限に抑えています。さらに、切り開いた山に在来種の樹々を戻していくための緑化工法、道路の壁面にデザインパネルを採用、ガードレールの色を茶色に統一するなど、自然環境・景観に配慮した道路整備を行っています。

(※) 安威川ダムの建設及び管理に携わる一人一人が自然環境保全に取り組んでいくための指針。

